

花フェスタ2005ぎふ

1/30 取材

3月1日（火）開幕！

3月1日に開幕する花フェスタ2005ぎふ。会場は、東海環状自動車道可児御嵩インターチェンジのすぐ近くにあり、多くの来場者が見込まれます。

ここでは、開幕前の花フェスタ2005ぎふの会場について、東中特派員の皆さんがお伝えします。

『青いバラの庭』が
お薦めです

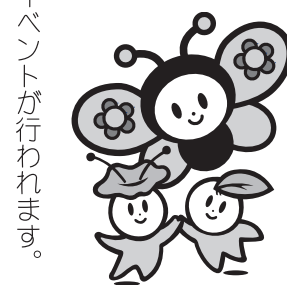
新たに造られたバラ園では、今までになかったたくさんバラが植えられていて、一つ一つのテーマごとに沿って丁寧に造られていました。その中でお薦めなのが、『青いバラの庭』です。青いバラといっても、白に薄い紫がかかった感じのものが多いです。まだ不可能といわれている青いバラですが、今さまざまな世界で研究されていて、もしこの先完ぺきな青いバラができた時に植えられるようにと、1カ所スペースが空けられています。青いバラを完成させるというところは、世界中のバラ研究者の希望なのだと思います。

3月1日に『花フェスタ2005ぎふ』が開幕しますが、お話を伺ったと



カメラを構える芦田さん（左）。加藤さん（右）から説明を受ける横山さん（左から二人目）と山口さん。

ころ、3月、4月は外のバラが完ぺきには咲かないので、室内で豪華にバラを展示し、またいろいろなイベントを企画して盛り上げるのがこのことです。主なイベントとしては、フライダルフッションデザイナーの桂由実さんのファッションショー、岐阜県出身のランナー高橋尚子選手によるジョギングフェスタなどで、そのほかにも



さまざまなイベントが行われます。

そして、屋内でもとても素晴らしいです。私たちが見学に行った時はまだ花は咲いていませんでしたが、たくさんバラの芽があり、また、建物ごとでもきれいで感動しました。温室の部屋もあり、温室では本当は5月に咲く花を3月、4月に咲くようにしているそうです。そんなことできるなんてすごいと思います。花フェスタでは、いろいろな工夫されていることが分かりました。

「花フェスタは人フェスタ」。花フェスタを案内してくれた加藤さんの言葉で、私たちの心の中に残りました。「人が主役。この『花フェスタ2005ぎふ』に来たみんなが幸せになれるように」という意味だそうです。この言葉を聞き、私たちは感動しました。地元の人たちが花の世話をしたり、花のバスケットをつくりたりして、みんなが協力し合って『花フェスタ2005ぎふ』は開催することができるのだということが分かりました。『花フェスタ2005ぎふ』が開幕するのを楽しみにしています。



(上) 全天候型の回廊が整備されており、雨の日も傘なしで楽しむことができます。(下) 奥に見える三角形の形をした建物が「花のミュージアム」。大画面を備えた映像ホールや、花や花にまつわる文化、芸術を紹介する展示スペースがあります。



「ジョセフィーヌのバラ園」。結婚式などのセレモニーを行うことも可能です。

「青いバラの庭」。完ぺきな青いバラが完成した時に、真ん中のひし形のスペースに植えられる予定です。



花フェスタ2005ぎふ実行委員会事務局
電話：0574-63-6566

ホームページ <http://www.hana2005.jp>

■入場券

入場券種別	区分	価格
普通入場券	大人	1,000円
	高校生・シルバー	700円
	小・中学生	500円

※入場券の種類、区分など詳細については、ホームページをご覧ください

東中特派員

芦田理加さん
横山啓子さん
山口千奈さん
3人で協力しました

新時代の幕開け
Special Edition



「バラのベルベデーレ」の上で、加藤さんから説明を受ける、右から芦田さん、横山さん、山口さん。

突撃インタビュー



花フェスタ2005ぎふ実行委員会
広報企画チーム
加藤英彦さん

特派員 なぜ世界一のバラ園にする必要があるのですか？

加藤さん これまで1,603品種で日本のバラ園でした。しかし、ドイツにサンガーハウゼンのバラ園があり、そこは約7,000品種、これを追い抜いて世界一(7,000品種以上)にして、一人でも多くの人たちに来てもらいたいと考えたからです。

特派員 管理するのに何人が働いていますか、また、庭園を管理するのに大変なことはどんなことですか？

加藤さん 通常は120人で公園を運営していましたが、このイベント期間中は、約150人で管理する予定です。天候(雪や霜)で花が傷んだり、咲く時期がずれてしまうため、これを管理していくことが、一番大変です。